

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：景気動向指数（2008年7月）

発表日：2008年9月10日（水）

～単月では上昇も、基調判断は引き続き「悪化」～

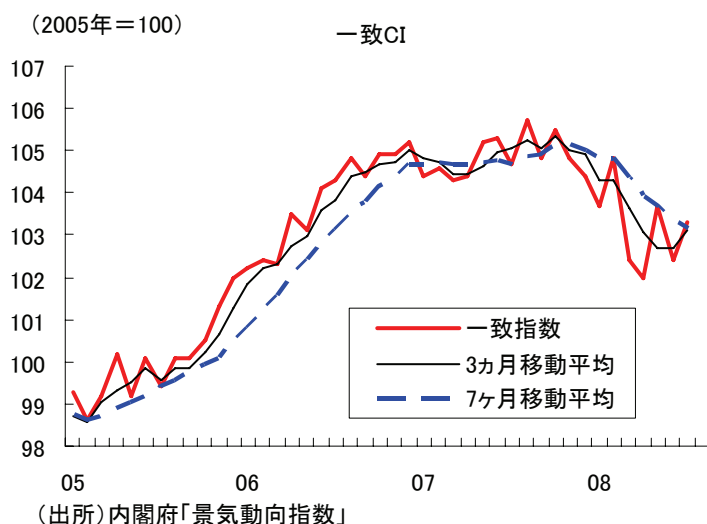
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ 基調判断は「悪化」を維持

本日公表された7月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+0.9ポイントとなった。マイナスに寄与したのは有効求人倍率と投資財出荷のみであり、7月は全般的に改善がみられた。また、C I先行指数についても前月差+0.6ポイントとプラス転化しており、7月はC I一致指数とC I先行指数が揃って上昇した。

もっとも、単月では上昇したものの、C I一致指数の悪化傾向自体に変化はみられておらず、内閣府による基調判断も「悪化」が維持された¹。内閣府の定義によると、「悪化」とは「景気後退の可能性が高いことを暫定的に示す」とされており、C I一致指数からは、景気が引き続き後退局面にあることが示唆されている。

なお、7月の改定値で数値が変わらないとの前提で計算すると、8月のC I一致指数が前月差+0.8ポイント以上であれば基調判断は「下げ止まり」に上方修正されるが、これが実現する可能性は低いだろう。C I一致指数を構成する系列には生産関連指標が多いため、鉱工業生産の動きに大きく影響されることは良く知られているが、その鉱工業生産の予測指数は8月に前月比▲2.9%が見込まれている。8月のC I一致指数は前月差マイナスとなる可能性が高いだろう。なお、9月の予測指数は同+3.4%だが、最近の予測修正率や実現率のマイナス傾向を考えると、控えめに見ておいた方が良い。当面、C I一致指数の基調判断は「悪化」が続くと予想される。



¹ 基調判断の一つの基準である3ヵ月移動平均前月差の符号はプラスに転じたが、判断が「下げ止まり」に上方修正されるほどのプラス幅には満たなかったため。内閣府の基準では、「下げ止まり」への上方修正には「3ヶ月後方移動平均の符号が変化し、1ヶ月ないし3ヶ月の累積で1標準偏差分以上逆方向に振れた場合」の条件を満たすことが必要。